

特種報告

一、労資懇談會

九州聯合會第五回年次大會に於て「自主的労働組合法即時制定要求の件」が議決され、その實行方法の一つとして健實なる労働組合を資本家に理解させるために労資懇談會の開催が提唱されたところ、小栗福岡縣知事、吉田協調會常務理事の異なる努力と斡旋に依つて、昨年四月三日、全國的の注目と危惧の中に福岡市に於て我國最初の労資懇談會が開催され、意外の成功裡に事を重ねること既に四回、一回は一同毎に會議の規模を擴充し、その意義を深めた。この福岡縣に於ける労資懇談會の成功が機運となつて關東、關西に相續いで労資懇談會が催され、これの全國的普及と成功は昨年來、日本労働組合會議が廢帝前首相に建議した「産業と勞動の統制」に就き、内務、陸軍、逕信各省次官を初め各政黨幹事長、學者代表的資本家、労働組合代表者百數十氏の胡野各方面の權威者を集めた労資懇談會の開催となり、本年六月には日本工業俱樂部主事膳柱之助氏、日本商工會議所書記長渡邊鐵藏氏の招待で同様の労資の懇談會が開催され、日本の國家産業の健全なる維持・發展、平和と困難復雜極まる労資問題を處理する指針がこの労資懇談會を通じて期待されるに到り、遂に内務省社會局は明年度豫算に於て、國家産業と労働問題を統制する國策の基準を作るためこの種の労資懇談會を積極的に指導する費用の計上を發表してゐる。

九州聯合會の大會決議が遂に國策の基準を作り出すまでに發展させた福岡縣の労資懇談會の驚異的成功と歴史的實務に

協力された人の芳名を特に本報告書に蒐録してその努力に深甚の謝意を捧げる。

▲第一回労資懇談會

一、日 時 昭和八年四月三日(月)午後三時

二、会 場 福岡市内幡町福岡縣教育會館

三、出席者 (順序不同)

事業主側 製鐵所磯谷光亮、渡邊鐵工所渡邊福雄、安川

主催者側 協調會顧問出張所長清原進

一、日 時 昭和八年七月二十日午後二時三十分

二、会 場 福岡市内幡町福岡縣教育會館

三、出席者 (順序不同)

事業主側 株式會社渡邊鐵工所渡邊福雄、岡部鐵工所岡

部繁、おたふくわな株式會社原田平五郎、浅野セメント

トスレート部門工場竹内基、黒崎織業株式會社松本

健次郎、製鐵所安永渡平、安川電機製作所安川第五郎

日本足袋株式會社石橋徳次郎、日本足袋株式會社石橋

正一郎、大日本麥酒株式會社博多工場中田光三郎、東

京製綱株式會社菊池寛次、明治鐵業株式會社安川清三

郎、株式會社麻生商店野田勢次郎、海軍燃料廠採炭部

大東健夫、海軍燃料廠採炭部高橋忠雄、製鐵所二瀬出

張所吉田友輔、三井鐵業株式會社筑豐鐵業所藤岡萬五

郎、三井鐵山株式會社田川鐵業所宇野操一、三井鐵山

株式會社三池鐵業所深川正夫、筑豊石炭鐵業組合見

實

労働組合側 總同盟九州聯合會伊藤卯四郎、總同盟九州

聯合會久保時造、セメント労働組合門司支部白木清三

日本製鐵労働組合聯合會頭安市、海員組合戸畠支部
増原操、海員組合下關支部木下善市、日本石炭坑夫組
合八谷幸太郎、製鋼労働組合小倉支部古川三次郎
官廳側 福岡縣知事小栗一雄、福岡縣警察部長敷藤鐵豆
福岡縣特高課長青柳一郎、福岡縣監督課長原田幾造
福岡鐵山監督課長渡邊鐵工所開拓課長原田健治

主催者側 総同盟九州聯合會伊藤卯四郎、官業労働同
志會沼橋文作、海員組合門司支部久保田長一郎
長清原進

▲第二回労資懇談會

一、日 時 昭和八年七月二十日午後二時三十分

二、会 場 福岡市内幡町福岡縣教育會館

三、出席者 (順序不同)

事業主側 株式會社渡邊鐵工所渡邊福雄、岡部鐵工所岡

部繁、おたふくわな株式會社原田平五郎、浅野セメント

トスレート部門工場竹内基、黒崎織業株式會社松本

健次郎、製鐵所安永渡平、安川電機製作所安川第五郎

日本足袋株式會社石橋徳次郎、日本足袋株式會社石橋

正一郎、大日本麥酒株式會社博多工場中田光三郎、東

京製綱株式會社菊池寛次、明治鐵業株式會社安川清三

郎、株式會社麻生商店野田勢次郎、海軍燃料廠採炭部

大東健夫、海軍燃料廠採炭部高橋忠雄、製鐵所二瀬出

張所吉田友輔、三井鐵業株式會社筑豐鐵業所藤岡萬五

郎、三井鐵山株式會社田川鐵業所宇野操一、三井鐵山

株式會社三池鐵業所深川正夫、筑豊石炭鐵業組合見

實

労働組合側 總同盟九州聯合會伊藤卯四郎、總同盟九州

聯合會久保時造、セメント労働組合門司支部白木清三

業株式會社長崎團次郎、三井鐵山株式會社田川鐵業所